ポーランド・マクロ経済情勢

2020年9月
在ポーランド日本国大使館
経　済　班

ポイント

１　景気は厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある

２０１９年のＧＤＰ成長率は４．１％（速報値）で、引き続き好調な経済成長を遂げた（２０１７年は４．８％、２０１８年は５．１％）。他方、足下では新型コロナウィルス感染症（COVID-19）の影響等により厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある。２０２０年５月、COVID-19の影響等を勘案し、金融政策委員会は政策金利を史上最低の０．１％に再度引き下げるなど金融市場安定化のために金融政策を緩和。

２　生産・消費は持ち直しの動きが見られる

７月の鉱工業生産は前年同月比１．１％増、小売販売は対前年同月比３．０％増。COVID-19の影響は残るものの、生産・消費はこのところ持ち直しの動きが見られる。

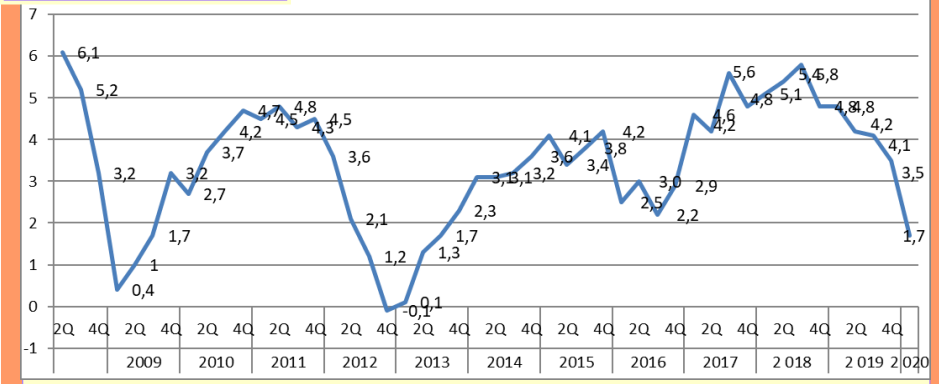
３　物価は上昇傾向に歯止め

７月の消費者物価指数（ＣＰＩ）は、対前年同月比３．０％上昇。物価は２０１９年末から上昇傾向にあったが、２０２０年４月以降は中央銀行のインフレ目標値２．５±１％の範囲内の数値内で推移。

４　雇用情勢は感染症の影響により弱い動き

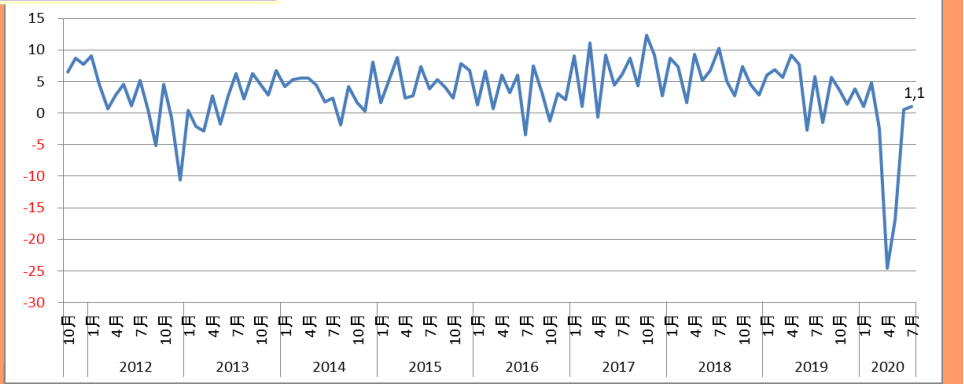
６月の失業率は６．１％、平均賃金上昇率は対前年同月比３．８％増。失業率は対前月比同、賃金上昇率は鈍化。COVID-19の影響により、弱い動きとなっている。

経済成長



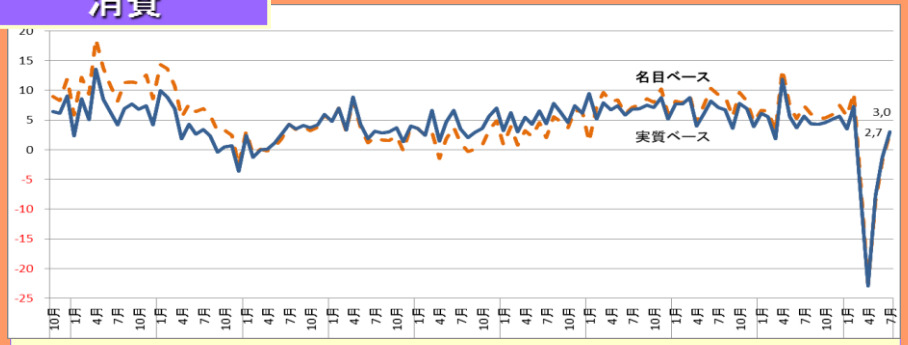
堅調な消費やEU基金を活用したインフラ整備等が経済成長に寄与するも、足下ではCOVID-19の影響により伸び率が鈍化。

生産



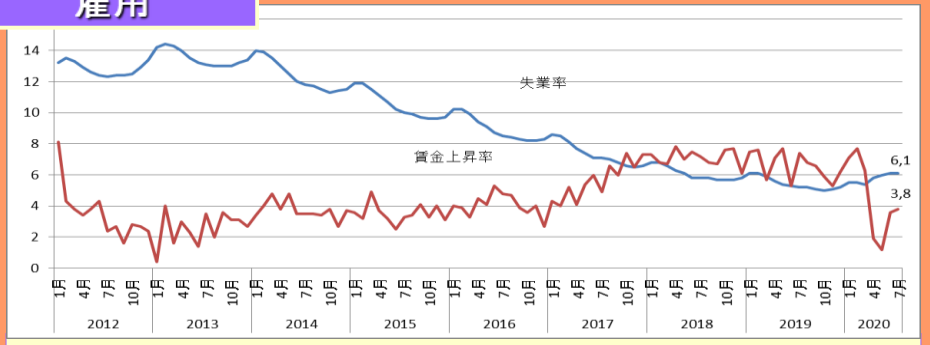
鉱工業生産は対前年同月比１．１％増と、感染症の影響は残るものの、持ち直しの動きが見られる。

消費



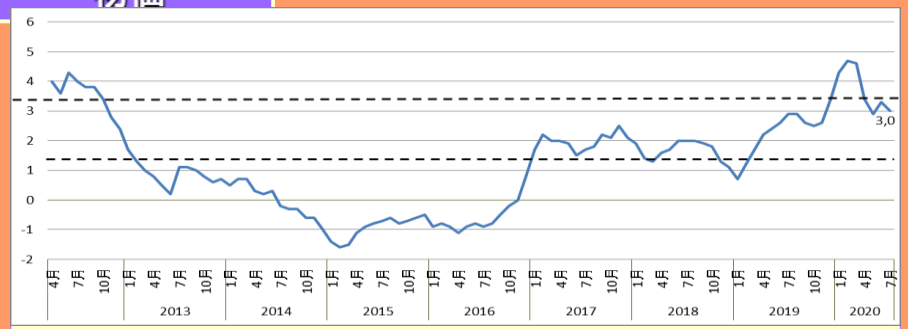
小売販売は対前年同月比3．0%増と、持ち直しの動きが見られる。

雇用



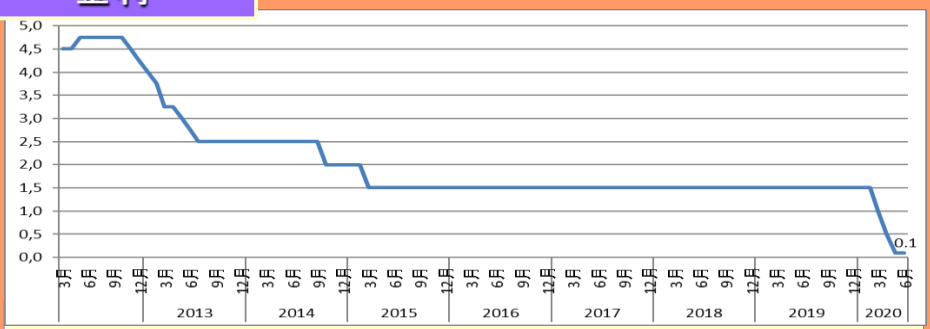
7月の失業率は6．1%で対前月比同。平均賃金上昇率は対前年同月比3．8%増と伸びが鈍化。

物価



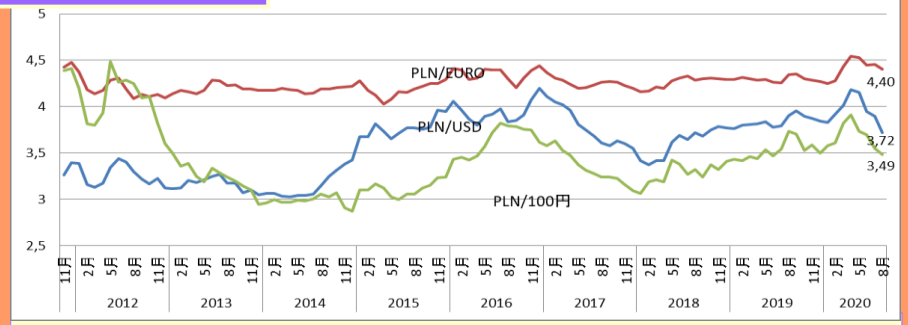
7月のCPIは対前年同月比3．0%上昇。2019年末から上昇傾向にあったが、2020年4月以降は中央銀行のインフレ目標値2．5±1%の範囲内で推移。

金利



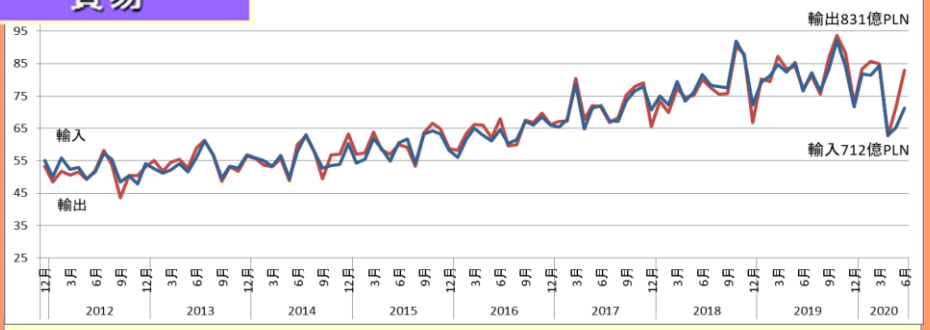
2020年6月、COVID-19の影響等を勘案し、政策金利を史上最低の0．1%に再度引き下げるなど金融市場安定化のために金融政策を緩和した。

為替



8月の平均為替は、対ユーロ（4．40ズロチ）、対ドル（3．72ズロチ）、対日本円（3．49ページズロチ）でそれぞれズロチ高が進んだ。

貿易



6月の輸出は約831億ズロチ、輸入は約712億ズロチで約119億ズロチの貿易黒字となった（5月は63億ズロチの貿易黒字）。COVID-19の影響は残るものの、持ち直しの動きが見られる。